

教育委員会だより

『自分・仲間・未来』
生き方につながる豊かな
学力の保障を目指して

佐賀中学校長 岡本 隆彦

本校では、教育目標を「人間を大事に」とし、人権「同和」教育を根底に据え、いじめや差別を許さない人としての生き方を大事にした教育実践を推進しています。

平成十七年度から二九年、「学力向上拠点形成事業」の指定を文部科学省から受け、生徒一人ひとりの生き方につながる豊かな学力の保障を目指した取り組みを行っています。

生徒一人ひとりに豊かな学力を保障していくためには、狭義の学力を付けることはもとより、生き方を考えていくうえで、の広義の学力を付けていくことが求められています。そこで、こうした狭義の学力を付けるため、数学科と英語科で課題別のコース選択制授業を、そして放課後に基礎タイム（KT）を設定して取

り組んでいます。

また、広義の学力に関して、総合的な学習の時間を中心に、生徒を主体とした活動・取り組みである、佐中祭・文化祭・修学旅行などのさまざまな行事などを通して付けていけるよう努めています。

「狭義の学力定着を 中心とした取り組み」

▼課題別コース選択制授業

昨年度の広報でも説明をしましたが、本年度も数学科と英語科で、生徒が自らの課題に応じたコースを選択して授業を受ける、コース制授業を行っています。コースは一度選択すると一年間同じコースで授業を受けなくてはならないというものではなく、章や単元終了後に実施するテストの結果をもとにして、生徒自身がコース変更をすることも可能となっています。

▼基礎タイム（KT）

水曜日を除く週四日間、放課後十五分の時間を使って、

国語・数学・英語の三教科を輪番で、基礎・基本の定着を目的に取り組んでいます。学期の終わりには、チェックテストを実施し、その定着状況を把握するよう努めています。

◎到達度把握検査（CRT）の結果

	1 年		2 年		3 年	
	得点率	全国比	得点率	全国比	得点率	全国比
国語	67.1	0.97	72.4	0.97	67.1	1.00
数学	56.8	0.93	58.6	0.96	68.2	1.04
英語	70.9	1.04	69.6	1.07	66.2	1.05
社会	61.3	0.98	62.4	0.99	59.0	0.94
理科	56.3	0.84	66.7	0.93	70.9	0.95

「広義の学力を 付けるための取り組み」

世の中に出、自らの人生を自らが切り開いていく、また心豊かな人生を築いていくためには、数学など授業で身に付けていく狭い学力だけではなく、豊かな体験や経験の積み重ねによって身に付けていく、広い意味の学力が大切と

なってきました。

そうした広義の学力を付けていくための一つとして、次のことを行っています。

▼修学旅行

二年生で実施する修学旅行は、平和学習を大きな目的として沖縄に行っています。日本でも唯一地上戦の行われた沖縄、島の至る所にアメリカの基地のある沖縄、近代化した市街地を少し離れると、先の戦争を風化させないための施設が至るところにある沖縄。南国特有のエメラルドグリーン色の海と抜けるように青い空、そして亜熱帯の木々。

こうした素晴らしい学習環境の中で、生徒たちは教育目標である「人間を大事に」を心と身体全体を使って学習していきます。

▼佐中祭

当初は旧佐賀町と交流していた（黒潮町となった現在も交流は続いている）ニュージランドの生徒たちの受け入れへの補助を目的として始めた行事でした。現在は、地域への貢献と世界の恵まれない人々への支援を目的として、祭りの売上金の一部を寄附する活動として行っています。

保護者や地域の方々の支援を受け、各学年が店を出し、飲食物をはじめさまざまなものを販売しています。生徒たちの店だけではなく、趣旨に賛同して下さる地域の方々や部活動などの保護者会の方々も店を出して下さいます。毎年五百人近くの方々が訪れてくれる、地域で最も大きな行事の一つとなっています。



平和祈念公園にて



佐中祭の様子

自ら学び、すすんで行動する子どもを育てる「ために」

南郷小学校長 黒岩 讓

児童の実態と学校の課題

今年度の児童数は、五十五名。全校的に仲が良く、真面目で、純粋な心を持っている子どもたちである。

学力面を見れば、昨年度末に実施したC R T（到達度把握検査）結果に表れているように、ほとんどの学年で算数も国語ともに全国平均を上回っている。

ただ、個別に見れば学力の定着が十分でない児童もおり、全体的な学力の維持、定着と合わせて、学力の底上げを図

平成18年度CRT結果

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
算数	1.01	1.06	1.05	1.02	1.12	0.93
国語	1.06	1.08	1.06	1.07	1.23	0.92

※全国得点率を「1」とした得点率指数

っていく必要がある。

一方、基本的な生活習慣を含めた生活力という面においても、弱さの見られる児童がおり、生活リズムの定着やたくましい心と体を備えた子どもたちに育てていくためのさらなる工夫や努力を進めていかなければならない。

校内研究のテーマ

「心をきたえ、学力をつける」

今年度も昨年度に続いて同一の研究主題を設定し、学校としての課題解決に向けて取り組んでいきます。今年度は、子どもたちに身に付けたい学力を次のような具体的な力として押さえ、それぞれの力を育むために実践、検証しながら取り組んでいきます。

◆基礎的学力

漢字力・計算力・書写力

◆実践的学力

話を聞き、自分の意見や考えを持ち、伝え合ったり、発表する力

習得した知識を使って追求や探求をしながら自己を高める力

仲間と協調し合いながら考えを深める力

◆学習力

・自主的、自発的な力

・ノートを効果的に工夫しながら使う力

◆生活力

・自立（自律）的に行動できる力

・仲間をいたわり、自分を大切にしながら過ごすことのできる力

◆体力

・防衛体力、行動体力

取り組みの具体化

朝マラソン（ランラントタイム）

早起きの習慣化と体力づくりのために、毎朝七時四十分から実施しています。



朝マラソンの様子

地域や地域の人材を生かした教育活動

昨年度から指定を受けている「豊かな体験活動推進事業」と連動させながら、保護者や地域の方々の全面的な支援を得て、五年生を中心に稲作体験学習に取り組んでいます。

田植え、草刈り、稲の成長観察、稲刈り、収穫米の販売

など「総合的な学習の時間」を使って体験することによって学ぶことのできる苦労や喜びを感じ取り、生きる知恵を学ぶことにしています。

生活習慣の改善

「きらりカード」を活用し、定期的に調査、集計、分析、保護者への結果の通知を通して子どもたちの生活改善を図っています。

QUアンケートの実施

学級集団および支援児童を把握し、改善に向けた手立てを講じることにより、学級集団や個々の児童の内面的な高まりと成長を促しています。

チャレンジタイム

毎週の火曜日の六校時に、全教員がチームに分かれて国語と算数の基本的な学力定着を図る取り組みを行っています。

授業改善

子どもたちの学力を形成する土台となるべき教育活動は授業です。日々のより良い授業作りのために今年度も国語部会、算数部会、人権教育部会、道徳教育部会の四つの部会を組織し、授業改善や学力

向上に向けた取り組みの充実を図っています。

「ひまわりノート」、「夢ノート」の活用

学校と家庭を結ぶ連絡帳として位置づけ、児童に日々の生活について自己の振り返りをさせたり、児童理解のための保護者との情報交換に活用をしています。

「南郷の子どもを育てる会」との連携

本校の教職員、保護者や地域代表により組織し、子どもたちの健全な成長に向けた教育課題（学力の実態、生活の実態）の共有化共通理解を図る場として年間四回程の会合を開いています。

参観週間の実施（学期に一回）

一日開放日（学期に一回） 教育活動を幅広く理解していただくために実施しています。参観者の声を聞き、教育活動の改善につながる取り組みにしていくことにしています。

以上の取り組みを中心に据えながら、子どもたちの知・徳・体の三点の向上を図り、教育目標に迫るために全教職員が互いに切磋琢磨しながら取り組んでいます。